

ご協力ありがとうございました

川越市地域福祉に関するアンケート調査の結果をお知らせします

市では、市民の皆さん、市、関係機関・団体などが協働して、住み慣れた地域の中で、誰もが生き生きと安心して暮らし続けられるよう、地域福祉計画の策定を進めています。その一環として実施したアンケート調査について、集計結果から一部を抜粋してお知らせします。この結果は貴重な基礎資料として、地域座談会・ワークショップ（研究集会）の実施結果と共に、計画の策定に活用していきます。

●アンケートの対象および調査方法

調査地域…市内全域 調査対象…平成16年8月1日現在満20歳以上で、市内在住の男女2,000人（無作為抽出による）

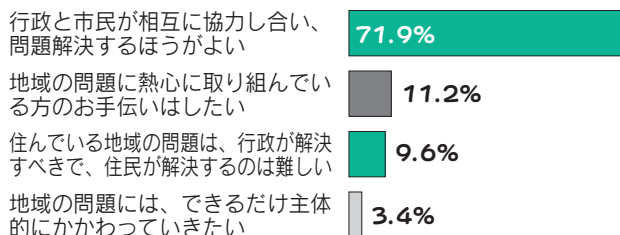
調査方法…郵送による調査票の配布および回収 調査期間…平成16年8月30日～9月13日

●回収状況

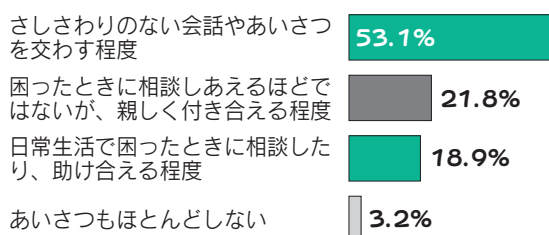
配付票数	有効回収票数	回収率
2,000	761	38.1%

問い合わせ…保健福祉推進課保健福祉推進担当・TEL内線2513

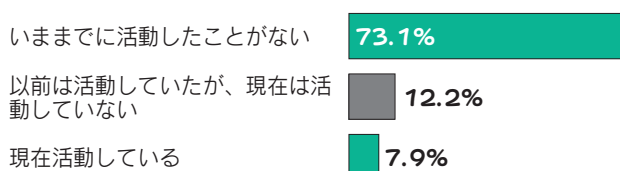
◆地域の問題とのかかわり方（回答者数761人）



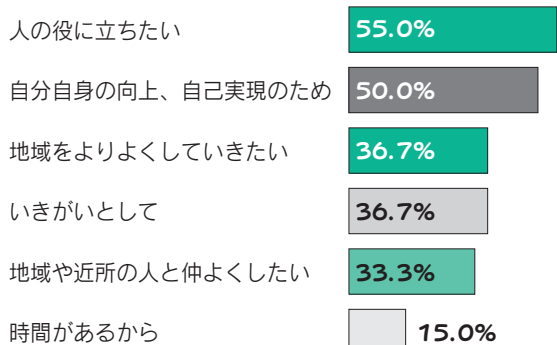
◆近所とのお付き合いの程度（回答者数761人）



◆福祉活動の経験（回答者数761人）

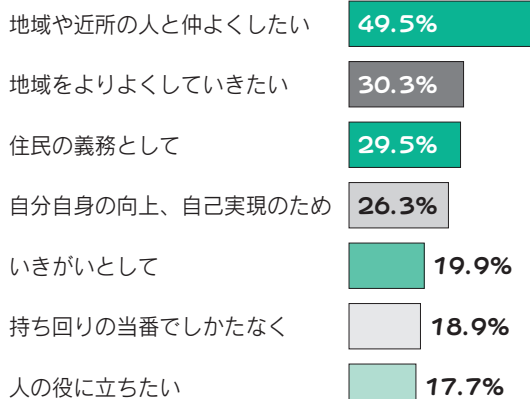


◆上記の質問で「現在活動している」と回答した人に聞いた、福祉活動に参加している理由（回答者数60人・複数回答）

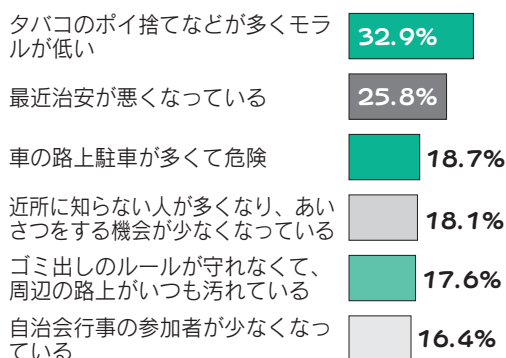


* 集計結果は、主な回答のみを多い順にあげているため、合計は100%になりません。
* 複数回答の質問は、回答者数に対する回答数の割合を示しているため、合計が100%を超えています。

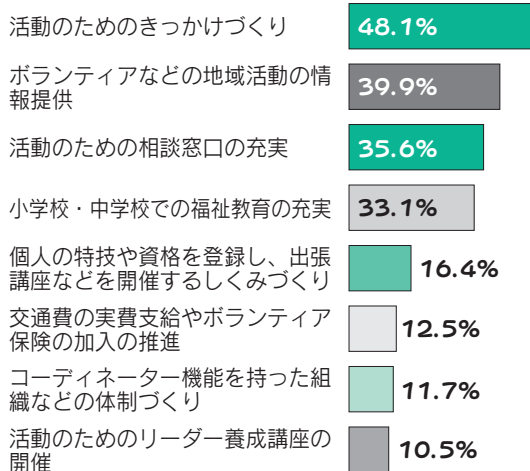
◆地域活動や行事に参加する理由（回答者数396人・複数回答）



◆住んでいる地域の課題（回答者数761人・複数回答）



◆「地域の助け合い活動」や「地域福祉のまちづくり」のために必要なこと（回答者数761人・複数回答）



Hello! ハロ姉妹都市

オッフエンバッハ市

国際交流課国際交流担当・TEL 224・8811 内線2142

七月四日から十八日までの二週間、川越ライオンズクラブの青少年育成活動事業として、オッフエンバッハ市（ドイツ・ヘッセン州）を訪れた二名の方の感想文を紹介いたします。

念願の、そして初めての海外滞在は実り多いものであり、想像していた以上にさまざまな体験をさせてもらいました。最も心に残ったことは、何といってもホームステイ先での生活です。食後は家族団らんを楽しみ、誕生日には親せき一同でパーティーを開きます。ドイツ人は、人と人とのつながりをとて大事にすると感じました。家族とのかわり、人とのかわりをあらためて見直してみたいと思いました。



温かく受け入れてくれました

今後もこの事業を通して両市間の交流がますます深まればよいと思います。

本村恭子（19歳・伊勢原町三丁目）

出発前、私の心の中は、緊張と不安とうれしさが入り交



ホームステイ先の家族の皆さんと

笑顔になりました。

滞在中はライオンズクラブの方々が、いろいろな所を案内してくれました。ほんとうに毎日が楽しくて全然ホームシックになりませんでした。英語がほとんど話せない私は、恥ずかしさと悔しさでいっぱいでしたが、ドイツの人たちは一生懸命に私の英語を理解しようとしてくれてとてもうれしかったです。

ドイツでの二週間は私にとってとても貴重です。素晴らしい体験になりました。

牛窪絵梨（19歳・大塚新田）

人権教育シリーズ 児童・生徒の作文②

教育指導課指導係
TEL 224・8811 内線2925

平成十六年度に川越市内の小中学生から募集した作文をまとめた人権文集「あけほの」から、作品を紹介いたします。

ぼくの友だち

小学四年生

五月にぼくのクラスに転校生が来ました。名前はA君です。A君は南アメリカ大陸のペルーという国から来ました。だから、日本語はあまりしゃべれませんが、スペイン語はすらすらです。

A君は一日でクラスのほとんどの人と仲よくなりました。とくにB君と一番先に仲よくなったみたいです。B君は、初日から帰って遊ぶ約束をしたりしていたので、ぼくは少しうらやましいと思いました。本当は、ぼくも遊びたかったけれど、その日は遊べない日だったので、とても残念でした。

ぼくは、A君からスペイン語を一つ教えてもらいました。「アミゴ」という言葉です。意味は「友だち」です。聞いたことのある言葉で、少しペルーが近く感じられました。

A君が来て、初めてのクラブの日、A君は、C君といっしょにアートクラブの場所へ見学に行きました。ぼくがアートクラブだったらいっしょに行きたかったけれど、ぼくは卓球クラブだったので、いっしょに行けませんでした。でも、A君がアートクラブでどんな絵をかいているのかなあと気になりました。今度きいてみようと思います。

この間は、外を歩いているとA君とお母さんに会いました。そのとき、A君はぼくにとびついてきてくれました。ぼくは、うれしいけれど何を話していいのかわからず、手をつないで喜びました。A君のお母さんは、「スペイン語を教えてください。」と言ってくれたので、今度習いに行こうと思います。

A君はとてもおもしろいので、クラスが前よりにぎやかになりました。たまには、先生にしかられるけど、ちゃんとあやまります。ぼくは、そんなところがA君のいいところだと思います。

ぼくは、A君と仲よくなれたし、A君も楽しい毎日を送っているよな感じがします。A君がぼくの学校に転校してきて本当に良かったなあとと思います。（一部省略）

*ふりがなは広聴広報課で付けました。

中学生が考える将来の川越

7月27日、川越市自治会連合会結成50周年記念事業が行われました。「環境都市“川越”を考える」と題し、中学2年生47人により、事前に調査・研究してきた結果を基に、ワークショップ（研究集会）と発表が行われました。「資料集めに2週間没頭しました」と参加した中学生。同事業実行委員会委員長栗原博司さん（67歳・岸町1丁目）は、「この成果を各学校に持ち帰り、みんなに環境問題について取り組んでもらいたいです」。



発表に向けてみんなの意見をまとめています

暮らし広がる
地域の



自治会活動から